

段ボールを使用した 生ごみリサイクルマニュアル



四街道市廃棄物対策課

R3.6月作成

【投入する生ごみについて】

1. 投入できるもの
 - ・ 私たちが普段食べているもの
2. 投入できるが分解されにくいもの（例）
 - ・ 果物の皮（小さく切って入れてください）
 - ・ 卵のから（細かく砕いて入れてください）
 - ・ 果物などの種（細かく砕いて入れてください）
 - ・ 肉や魚の骨（小さく切って入れてください）
 - ・ 貝殻（細かく砕いて入れてください）
 - ・ タマネギの皮やタケノコの皮
3. 投入するのに向かないもの（例）
 - ・ 腐ってしまった生ごみ
 - ・ 腐りやすい生ごみ（生肉や生魚）
 - ・ カビの生えた生ごみ

【用意するもの】

- ・ 段ボール箱 1個（容器となる箱用）
- ・ 段ボール紙 1枚（箱の底面の強化用と蓋を作る用）
※4面くっついた段ボール紙をご用意ください。そのうち2面分を箱の側面の強化用、残りの2面分を蓋を作る用としてください。
- ・ 新聞紙（2枚程度）
- ・ ピートモス（土壌改良剤）
- ・ もみがらくん炭（土壌改良剤）
※ピートモスともみがらくん炭の量は3:2になるように用意してください。
例) ピートモス15リットル、もみがらくん炭10リットル
- ・ 虫よけキャップ（虫よけとして）
※布をかぶせてゴムバンドで留めるなどの方法で代用できます。
- ・ すのこや園芸用のポット苗箱
※布テープの芯を4,5本用意するなどの方法で代用できます。



【箱などの作り方】

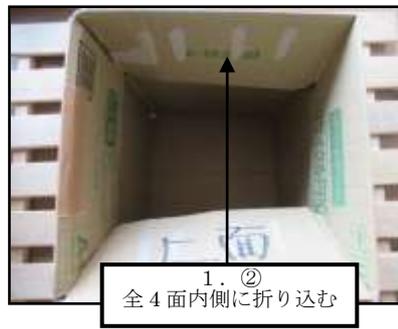
1. 段ボールコンポスト容器の作り方

①段ボール箱を1つ用意してください。

②底面だけを布テープなどで貼りあわせてください。上面は、内側に折り込んで段ボールを補強してください。

※段ボールに隙間のないよう布テープなどを貼りあわせてください。隙間があると虫が入る要因となります。

③箱の底面の強化用段ボール紙を②で組み立てた段ボールの底面と同じ大きさに切り、切ったものを段ボールの内側底面に敷いて、その上から新聞紙（余計な水分を吸収するため敷きます。）を敷いて、完成です。



2. 段ボールコンポスト容器の蓋の作り方

①蓋用の段ボール紙を広げて、横に半分に切ってください。

②①で半分に切った段ボールを、布テープなどで貼りあわせて、上から見るとL字型に見える状態のものを2個つくってください。

③②でつくった2つの段ボールを組み合わせます。

④隙間を布テープなどで貼り合わせて、蓋の完成です。



【使用方法】

1. 初回について

①基材（ピートモス 15 リットル、もみがらくん炭 10 リットル）をあらかじめ混ぜたものを段ボールの 6 割くらいの高さまで入れてください。その後、水 1 リットルを用意し、中の基材を握ると泥団子のように固まる程度まで全体を混ぜながら基材を湿らせてください。

※ピートモス 15 リットル、もみがらくん炭 10 リットルを用意できない場合は、ピートモスともみがらくん炭の量が 3:2 になるようにご用意ください。

※水は 1 度に全量入れるのではなく、水を少し入れて基材全体を混ぜる工程を何度か繰り返してください。また、基材の分量に応じて水の量を調整してください。

②底面がふやけて破けるのを防ぐため、すのこや園芸用のポット苗箱など通気性に優れた台の上に段ボールを設置してください。

③段ボールの中心部に穴を掘って穴に生ごみを入れてください。

④③で穴に入れた生ごみの上に基材をかぶせてください。

⑤虫よけキャップなどをかぶせてください。（任意です）

2. 2回目以降について

①前日に入れた生ごみ部分のみをよくかき混ぜてください。

※生ごみを入れない日でも、1日1回必ずかき混ぜてください。

②段ボールの中心部に穴を掘って穴に生ごみを入れてください。

③②で穴に入れた生ごみの上に基材をかぶせてください。

④虫よけキャップなどをかぶせてください、（任意です）

これ以降は、生ごみを分解するまでに時間がかかる熟成時期まで、2の①～④の工程を繰り返し続けてください。

※中の温度は 20℃以上が理想で、うまく分解が進んでいると 40℃程度まで上昇します。また、白カビが生えている場合はうまくいっている証拠ですので、白カビを生ごみと一緒に混ぜてください。

3. 熟成

生ごみの投入期間が 3～6 か月程度経過し、生ごみを分解するまでに時間がかかると感じた時期に行います。

①最後に生ごみを入れた日から 1 週間後まで、毎日段ボール内をよく混ぜて、分解を促進してください。

②①の工程終了後、1 週間に一度、1 リットルの水を入れて全体をよく混ぜてください。

※基材の分量に応じて水の量を調整してください。

③②の工程を続け、生ごみの形がなくなり、水を加えて全体をよく混ぜても段ボール内の温度が上昇しないようであれば、熟成完了（＝たい肥の完成）です。

※熟成期間は、夏場で 1 か月、冬場で 2 か月程度と言われています。

※熟成期間終了後は乾燥しても水を加える必要はありません。

4. 熟成後のたい肥の使い方の例

①プランターを使用する場合

例) 土とたい肥の割合が4:1になるように全体的にまいてよく混ぜる。

②庭や畑を使用する場合

例) うねをつくり、溝部分にたい肥を入れて、上から土をかぶせる。

例) 穴を掘り、その中にたい肥を入れて、上から土をかぶせる。

【使用上の注意点と対応策】

1. 段ボール内から悪い臭いがするとき

水分が多いことが考えられます。蓋をあけて水分を蒸発させたり、ピートモスやもみがらくん炭などの基材を入れて調整してください。また、次回以降野菜の皮などを入れる場合は、水気をよく切ってから段ボールに入れてください。

※基材の分量はピートモス：もみがらくん炭が3:2の割合で入れてください。

2. 段ボールの置き場所について

段ボールは軒下やベランダなど雨のあたりにくい場所に置くことが適切です。雨のあたる場所は、段ボールの劣化につながるので、好ましくありません。

また、段ボールコンポストは、虫が発生する場合がありますので、室内は不向きです。

3. 段ボール内の温度が上がらないとき

温度が上がらないときは微生物が好む油を使用した甘いお菓子や廃油などを入れると、発酵や分解が活発になり、温度が上がります。

その他、段ボールをよくかき混ぜると、発酵や分解が活発になり、温度が上がります。

また、外気温が低い冬場などは、60℃～70℃くらいのお湯をペットボトルに入れて箱の周りに置き、古毛布などで覆って保温することで、微生物が活発に活動できる環境をつくることができます。

4. 休止していた生ごみの投入を再開するとき

再開するときは、段ボール内をよく混ぜてから生ごみを加え、段ボール内が乾燥している場合は水を加えてください。

5. 生ごみの投入量について

1日200g～500g程度くらいを目安によく水を切って段ボールに入れてください。なお、生ごみを細かく切ると、微生物が生ごみを分解しやすくなります。

【問い合わせ先】

四街道市役所環境経済部
廃棄物対策課 計画係

☎043-421-6132